

旬届けるキッチンカー

加美 高橋さん(元地域おこし協力隊員)が起業

地場産食材にこだわった手作り弁当専門のキッチンカーが17日、加美町内で走り出す。店長で町域おこし協力隊「卒業生」の高橋千鶴さん(40)は「町の魅力を『食』で発信したい」と意気込む。

手作り弁当17日発売

同町小野田地区出身の加美千鶴さん(40)は、大学卒業後、さいたま市で舞台芸術関連の仕事に就いていた高橋さん。「古里の風景が

忘れられない」と一念発起し2017年、Uターンして協力隊員に。丸3年の任期中は産直施設「やくらい土産センター」の活性化に携わり、商品開発、都市部のカフェとのコラボレーション企画考案など、そのアイデアウーマンぶりで知られた。

内にも忍び寄るコロナ禍で「待っていてもお客さんが来てくれないのなら、こちらから足を運ばばいい」と移動販売に方針転換。町からの資金補助も受け、帰郷時の夢を実現させた。

店名「Kamiru(カミル)」は「加美町をめぐ」「季節をめぐ」「自然由来の栄養素が体をめぐ」「そして私の名前を掛けた造語」。いわゆる「ピタミソカラー」の黄色



入魂の品「加美の旬菜弁当・卯月」

もともと趣味だった料理と、隊員時代に培った地元産者との結びつきを生かした起業は前々から温めていたもの。当初は店舗を構える計画だったが、町

い「スバルサンバー」が目印だ。もちろん売り物の弁当も入魂の品。つぼみ菜、こごみ、雪下ニンジン、アサツキ、ノカソウといった春の食材をふんだんに使い、郷土料理のような優しい味付けで仕上げた。ひとめぼれと玄米食専用米「金のいぶぎ」をブレンドして炊いたご

飯も健康志向にぴったりの。名付けて「加美の旬菜弁当・卯月」。数量限定で価格は800円前後の見通し。5月以降も四季折々の旬に合わせて少しずつ中身を交えていく。

初日とその翌日は高橋さんが「原点」と語る土産センターで店を開く。以降の出店スケジュールはKamiru

大崎市は市民相談・消費生活相談(常設相

談)を月曜から金曜まで、市役所東庁舎1階の市政情報課および消費生活センターで行っている。
相談の受付時間は午前9時から午後4時まで。問い合わせは市政情報課市民相談担当 電話0229(23)91255、または消費生活センター 同0229(21)73211へ。

登米、大衡で震度2

14日夜の地震

14日午後7時3分ごろ、宮城県沖を震源とする地震があり、東北太平洋側で揺れを感じた。気象庁によると、震源の深さは約60キロ、地震の規模を示すマグニチュードは4.0と

森下千里氏が来社

衆院選宮城5区立候補予定

次期衆院選・宮城5区に自民党から立候補予定の新人で元タレントの森下千里氏(39)は

した。森下氏は愛知県名古屋出身、名古屋学院大経済学部中退。2002年に芸能デビューし、テレビのドラマやバラエティー番組などで活躍。19年末に当時

所属事務所を離れて芸能活動を引退し、東京都内の会社代表などを経て、3月14日、宮城5区への立候補を表明した。佐々木賢司県議(大崎選挙区)とともに来社した森下氏は「いつか政治の道に進みたいという気持ちがあった。政策で最も共感で

きるのが自民党だった」という。宮城5区を選んだ理由について「自分が芸能デビューしたのは『仮面ライダールン』への出演だった。石巻市は、仮面ライダー生みの親、石ノ森章太郎さん(故人)ゆかりの地なので、そこに縁を感じた」と説明した。

地の人となり、骨を埋めるつもり」と強調。「市民と想いを共有して政策を打ち出し、自分が家庭をもったときに子どもを産み育てたいと思えるまじにした」と語る。タレント時代のイメージとは違う生身の自分をもっと多くの人に知ってもらいたい、若い人たちにも政治に関心を持って

1996年の小選挙区制導入後、宮城5区で無敗の連続8選を誇る立憲民主主義の現職、安住淳氏(59)は党国対委員長にへ挑むことについて「選挙に強い方。胸を借りるつもりで頑張りたい」と述べた。

お母やみ



キッチンカー「Kamiru」と高橋さん